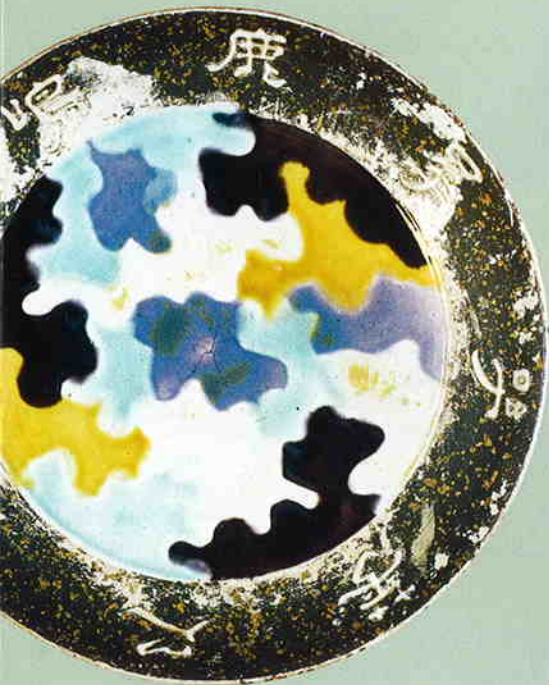
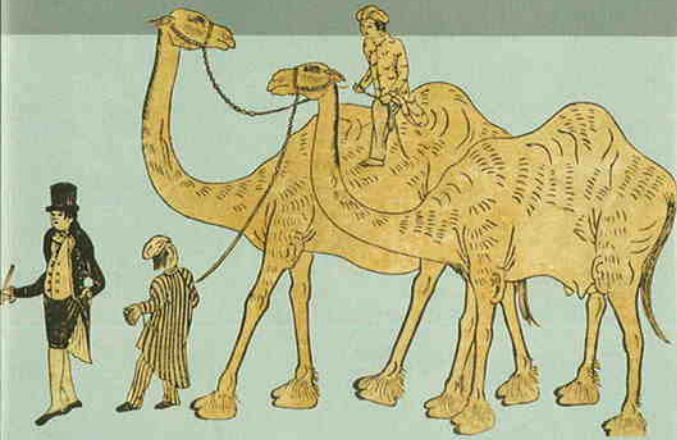


長崎街道

NAGASAKI KAIDO

大村宿



- ◆長崎版画ラクタ図【上】
文政4年(1821)にオランダ船により渡来した、アラビアのメッカ産ヒトコブラクダ。(長崎市立博物館蔵)
- ◆長与三彩詩文入皿【下】
大村藩長与窯で焼かれた。三彩は中国南部・東南アジアから技術がもたらされた。

長崎街道

NAGASAKI KAIDO

松原宿



- ◆象誌【上】
象は將軍徳川吉宗の求めにより渡来し、江戸まで歩いて上った。(長崎県立長崎図書館蔵)
- ◆南蛮漆器・花樹蒔絵螺鈿小洋櫃【下】(かじゅまきえらでんしょうようびつ)
安土桃山時代、ポルトガル人の求めにより日本から輸出され、ヨーロッパに渡った。

松原宿

長崎街道25宿のうちの一つ、古くから陸路・海路の交通の要衝として栄えた。鍛冶屋が発達し、かつては島根県・安来から、海路で玉鋼(はがね)が運ばれてきた。

◆JR松原駅



◆松原宿・茶屋跡

宿の中央にある茶屋はその後、造り酒屋・上野酒店として発展した。屋敷地は今もその面影を残している。



◆「天祐丸」進水式

豪商上野酒店は大正時代、貿易を志し、商船「天祐丸」を建造した。写真は松原操島での進水式の模様。



◆松原鍛冶

松原鍛冶の歴史は古く、江戸時代後期には17軒の鍛冶屋があったことが知られる。鎌や包丁が殊に有名で、「松原鎌」、「松原包丁」といえばブランド名となっている。

大村宿

大名や長崎奉行が宿泊する本陣があった。陸路・海路の要衝で、大村湾一帯の商業の中心として栄えた。その後も発展を続け、大村の中心市街地を形成している。

◆JR大村駅



◆描かれた大村宿 チャールズ・ワグマン画

『イラストレイテッド・ロンドンニュース』1961年10月26日号に掲載された大村宿。現在の本町2丁目付近と思われる。原題は「大村で私たちが護衛してくれた火縄銃兵たち」



◆内田川河口(古写真)

大村宿の船着き場として賑わった内田川河口。大村湾一帯から船が集まり、物資が両岸に集積された。「鶴亀橋」のたもとに立てば、今も往時をしのぶことができる。



◆深澤儀太夫勝清肖像画

初代深澤儀太夫勝清の肖像。紀州の海で修行をし、帰郷して後、鯨組を組織。九州における捕鯨業の草分けで、主に五島灘を中心に捕鯨業を行い巨万の富を得、私財を投じて野岳堤の築造などを行い社会貢献を行った。本町にあった屋敷は大名家などが宿泊する本陣にあてられた。

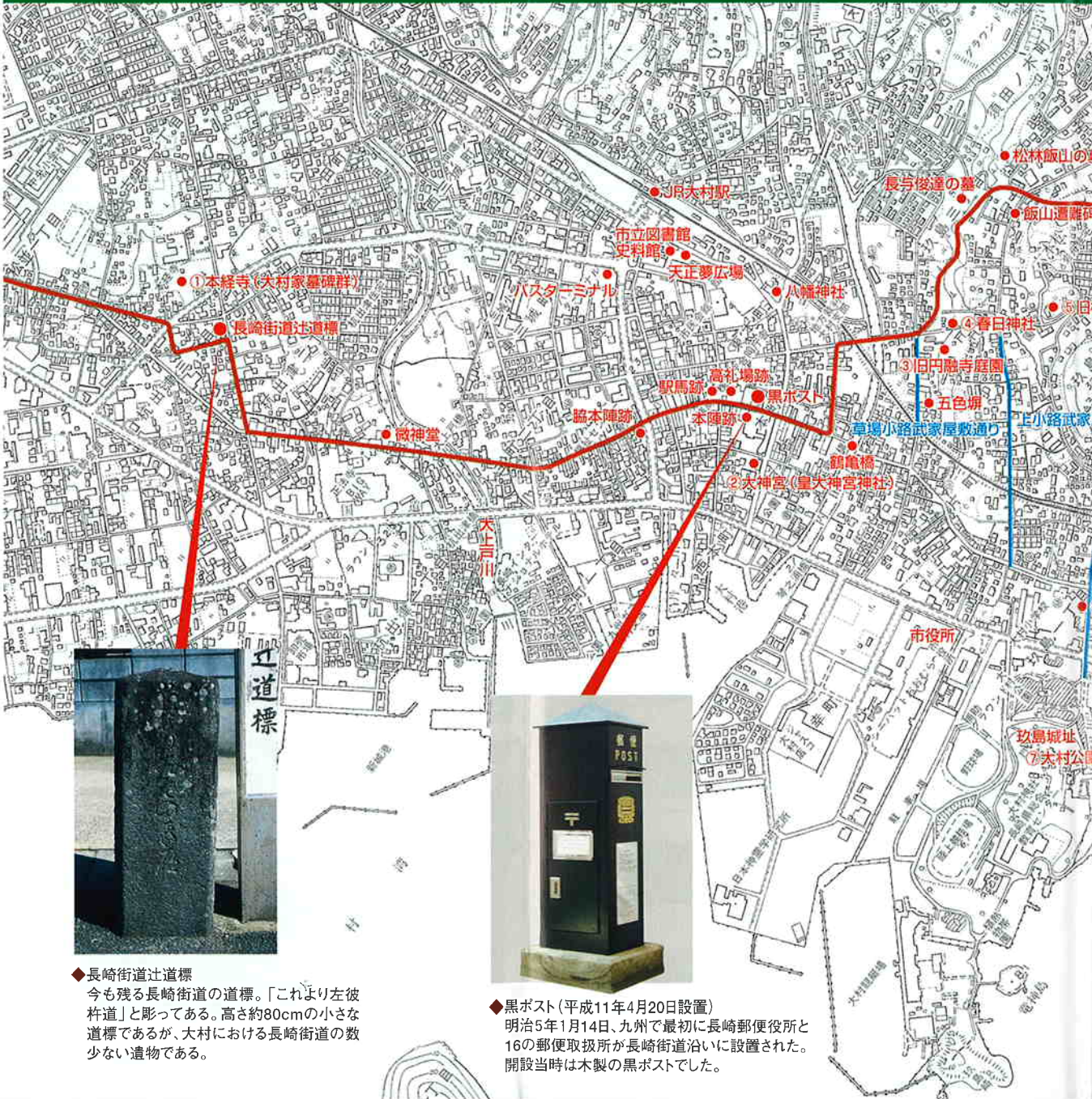


① 本経寺大村家墓碑群(県指定有形文化財)
本経寺は日蓮宗の寺院で、大村家の菩提寺となっている。大村家歴代藩主とその家族の墓があり、特に巨大な墓石が立ち並び、全国的にも類を見ない規模である。寺院は大村市で最も古い木造建造物である。



② 大神宮(皇大神宮神社)
皇大神宮は伊勢神宮の末社です。天保12年(1841)に当時、海だった現在地を埋め立てて建てられ、三方を海に囲まれていました。

大村宿と武家屋敷街



◆長崎街道辻道標
今も残る長崎街道の道標。「これより左彼杵道」と彫ってある。高さ約80cmの小さな道標であるが、大村における長崎街道の数少ない遺物である。



◆黒ポスト(平成11年4月20日設置)
明治5年1月14日、九州で最初に長崎郵便役所と16の郵便取扱所が長崎街道沿いに設置された。開設当時は木製の黒ポストでした。



③

◆旧円融寺庭園(国指定名勝)

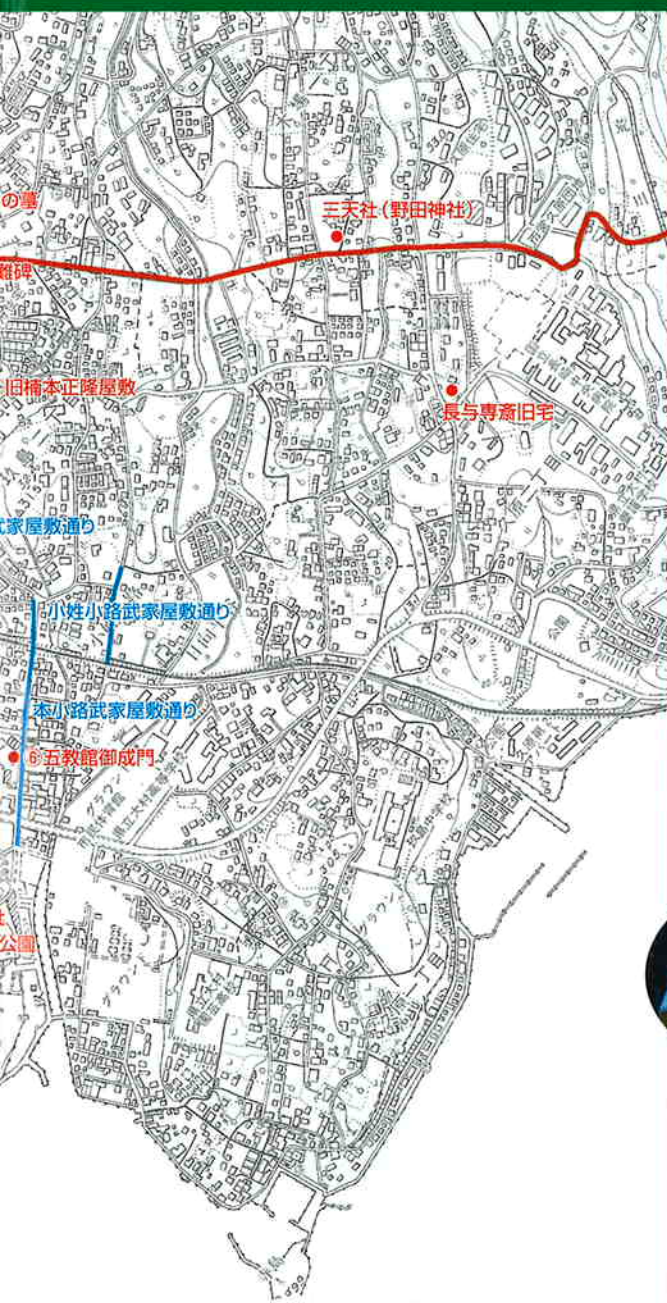
円融寺は、承応元年(1652)、大村家22代純長によって、徳川家の位牌を祭るため創建された天台宗の寺院でした。書院裏の山の斜面を利用して築山風に見立て、400個もの自然石を使った三尊方式の石庭園は、江戸初期様式の庭園として傑出して見えます。



④

◆春日神社から見た長崎街道

寛永17年(1640)、大村家により創建された。大村家は藤原姓を名乗り、藤原氏の氏神社である奈良春日大社の分霊を祭ったのが最初。街道はこの鳥居の下で直角に曲がる。旅人は必ずこの神社を正面に仰いだ。



三夫社(野田神社)

長与専斎旧宅

1 : 14,000

0 500 1000M



⑤

◆旧楠本正隆屋敷(市指定史跡)

城下町大村を代表する武家屋敷。楠本正隆は、明治時代に新潟県令、東京府知事、衆議院議長を歴任、屋敷は一般に公開されている。入場料/大人100円・子供50円、月曜休館。



◆大村の雛祭り
毎年、3月下旬～4月上旬に大村家のお雛様が展示される。



◆五教館御成門(ごごうかんおなりもん・県指定史跡)

五教館は大村藩校で、勤皇思想家松林飯山や近代医学の祖長与専斎、原子物理学者長岡半太郎などを輩出した。御成門は藩主専用の門で、通称「黒門」と呼ばれている。現在は大村小学校となり、入学生・卒業生がこの門をくぐる。



◆大村神社のオオムラサクラ
(国指定天然記念物)
三段咲きの珍しい桜で、花びらは多いもので200枚にもなる。4月中旬頃開花。

⑦



◆玖島城(くしまじょう・大村公園)ハズレ市役所前・大村公園前
慶長4年(1599)、大村家19代大村喜前(よしあき)が築城した大村藩2万7千石の居城。城には天守閣はなく、戦火に遭わず明治維新を迎えた。黒勾配の石垣は見事。県下随一の、桜や花菖蒲の名所として市民や観光客で賑わう。

長崎街道

江戸時代初期に、小倉から長崎まで52里を25宿で結んだ九州随一の幹線道路、長崎にもたらされた海外の情報を、逸早く江戸に届けるために整備された。



◆大村領絵図(天保8年)
(長崎県立長崎図書館蔵)



藩境石

籠立場跡

渡辺伝弥九の墓

古松権現(大神宮)

里塚跡

三城城址

富松神社

市立図書館
史料館

大村宿

本経寺

御門所跡

故虎原新井所

市民プール

森園公園

正少年使節像

長崎空港

長与専斎旧宅

国立長崎医療センター

長岡半太郎屋敷跡

武家屋敷街

旧円融寺庭園

五教御成門

玖島城址

御船碇跡

大村競馬場

玖島崎古墳群

JR松原駅

鈴田半跡

鈴田川

大村公園

大村市役所

西堀川

大土戸川

白島

JR大村駅

天正寺広場

大村宿

御門所跡

故虎原新井所

市民プール

森園公園

正少年使節像

長崎空港

長与専斎旧宅

国立長崎医療センター

長岡半太郎屋敷跡

武家屋敷街

旧円融寺庭園

五教御成門

玖島城址

御船碇跡

大村競馬場

玖島崎古墳群

藩境石

籠立場跡

渡辺伝弥九の墓

古松権現(大神宮)

里塚跡

三城城址

富松神社

市立図書館
史料館

大村宿

本経寺

御門所跡

故虎原新井所

市民プール

森園公園

正少年使節像

長崎空港

長与専斎旧宅

国立長崎医療センター

長岡半太郎屋敷跡

武家屋敷街

旧円融寺庭園

五教御成門

玖島城址

御船碇跡

大村競馬場

玖島崎古墳群

JR松原駅

鈴田半跡

鈴田川

大村公園

大村市役所

西堀川

大土戸川

白島

JR大村駅

天正寺広場

大村宿

御門所跡

故虎原新井所

市民プール

森園公園

正少年使節像

長崎空港

長与専斎旧宅

国立長崎医療センター

長岡半太郎屋敷跡

武家屋敷街

旧円融寺庭園

五教御成門

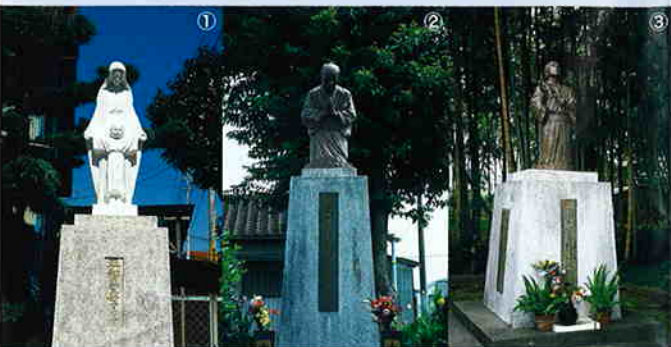
玖島城址

御船碇跡

大村競馬場

玖島崎古墳群

キリシタン



◆獄門所跡①

「郡崩れ」で処刑された131人の首は塩づけにされここで20日間晒された。現在、白い聖母マリア像が建てられている。

◆首塚②

「郡崩れ」で処刑された131人の遺骸は、首と胴に分けられ、別々の場所に埋められた。キリシタンの妖術で生き返るのを恐れたためといわれている。

◆胴塚③

「郡崩れ」で処刑された131人の胴体を、桜馬場の2箇所に分けて埋めたものである。現在、近くの竹林に顕彰碑が建てられている。

◆鈴田牢跡④

元和3年(1617)から元和8年(1622)まであったキリシタンを収容するための牢屋で、二重の柵に囲まれた鳥籠のようなものであった。奥行6.6m、間口4.6mの狭い所に35名が収容されていた。



◆放虎原新罪所(ほうこぼるざんざいしょ) 大村藩の処刑場。明暦3年(1657)、大村藩を揺るがしたキリシタン発覚事件「郡崩れ」で、131人がここで処刑された。



◆メダリオン・無原罪の聖母 (県指定有形文化財)

スペイン・マドリド造幣局で造られた青銅製メダリオンで、大村高校建設時に、旧大村家老の墓から出土した。(市立史料館蔵)

◆大村純忠終焉の居館跡

日本最初のキリシタン大名大村純忠が晩年を過ごし、55才の生涯をここで閉じた。現在は「大村純忠史跡公園」として一般に開放されている。

松原宿



◆松原八幡神社

松原村の鎮守。鳥居は船底の形をした「肥前鳥居」と言われるもので、市内にはここだけしかない。



◆松原くんち

(11月中旬の土日)

松原八幡神社のくんち奉納相撲。九州各地からアマチュア力士が集まり、くんち最大の出し物となっている。

◆松原浦女相撲甚句踊

くんち出し物の一つとして、浜の女衆による太刀持ちを従えた横綱の土俵入りがある。芸能の中心は、独特の節回りで歌う相撲甚句で祭りを盛り上げる。



◆松原宿通り

国道が迂回したこともあって、街道の面影を残している。鍛冶屋のほか、古くから「松原おこし」が有名。





◆五色塀(草場小路)

江戸時代に大村領を通った旅人は、この「五色塀」に一樣に驚いている。大村湾一帯の海岸から集められた色とりどりの石を積み、漆喰で塗り固めたその派手な色彩に驚いたのである。



◆旧大村連隊前の松並木
現在の陸上自衛隊大村駐屯地の前付近。長崎街道の風景の一つであった松並木も戦時中に切られ、今は松並という地名だけが名残をとどめている。

◆昊天神社(こうてんじんじゃ)

彼杵郡全体の鎮守として、鎌倉時代にはすでに創建されていた。最初は、ここから北西の郡中学校付近にあったが、キリシタンの焼き討ちで消失し、江戸時代に再建された。



◆郡川

大村湾最大の河川。シーボルト著の『日本史』に掲載された郡川。飛び石で渡る様子が描かれている。この河口付近には鰻を捕るための「うなぎ塚」を見ることができる。

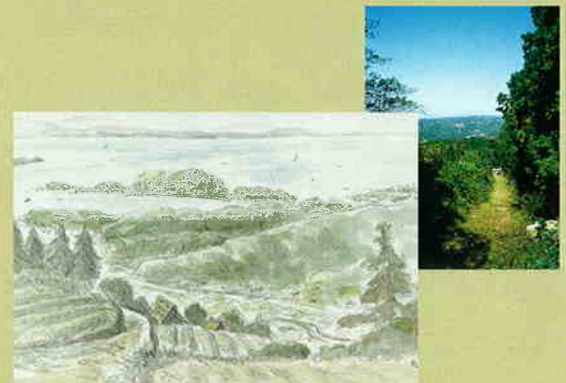


◆鈴田峠(藩境付近諫早側)
文化庁選定「歴史の道百選」のつぎに選ばれている。



◆鈴田峠藩境(大村側より諫早)

ここには「硯石」または「鬼の足形石」と呼ばれる藩境の大石がある。また藩境を示す石組が数十メートルおきにあり、風観岳の頂上には「三角塚」がある。シーボルトは、江戸参府に向かうオランダ商館長一行をここで大村藩士が出迎えたこと記している。



◆鈴田峠

(ワーグマンの見た鈴田峠)

幕末に長崎街道を歩いたロンドン・ニュース社の特派員チャールズ・ワーグマンは鈴田峠の印象を次のように記している。「私たちは足元に広がる大村地方を見下ろした。最前面には、普通のもみの木があり、遠方には海が見えた。」



◆籠立場
大名などが往来した際に、籠をおろし休憩した場所。街道脇に石垣が残っている。